

第15回長野失語症者・構音障害者の集い 長野大会 ぐるっと一座公演「ことばを開け ぐるっとの風」

道行

小天狗、天狗の長、おばば、チュウチュウの一行が戸隠の岩戸を目指し現れる。
失語症の民と家族の一行も登場
大神の声で失語症の三種の神器が示される。

「ひとつ」ミソを使え、ミソを。人間の脳には何億というまだ使っていない細胞がある。動かすのじゃ、それを。

「ふたつ」どんなに些細なことでも、自分のできることをやってみろ。

「み一つ」人間には誰もが持っている自分らしく生きる為の宝物がある。それを探せ。

この三つが失語症の三種の神器じゃ。



病院での様子

病室での患者、ボランティア、看護師、家族の会話

言語聴覚士の先生へ

それぞれに患者・家族の思いが語られる
おばばの語り



生まれて死ぬるは、この世の定めとは言ふものの、言葉の障害をもってこの生き難き世を生きることは、並大抵のことではございません。自信を失い、あせりや絶望の淵に立ち、悩み、恐れ、己を呪い、人を呪い、もだえ苦しむのが人なのでございます。でもそんな日常の中にほのぼのとした幸せや喜びも見えてまいります。当事者の煮えたぎる気持ちや、家族の切なる思いに耳を傾けて下され。

退院後の生活

食堂「藤しげ」
今井家のリビング
本多家の食卓



わたし、おじいちゃんの家に来るのが大好き。
いつもおいしいものたくさん食べれるんだもの。

劇中劇 『夢運び観音出開帳の巻』

皆様ようこそのお運びで これよりぐるっと一座のオペレッタ「夢はこび観音出開帳の巻き」のはじまりです。

わらわは「命の言葉 響き合う国」より参りし『ゆめ運び観音』なるぞ。

さて奉行、入国審査の次第を皆の者に、わかり易く説明してたもれ。 ゆっくり はっきり話すのじゃぞ。



ゆめ運び観音登場



同心の二人、声を揃えて「ごうかく〜」



チュウチュウコーラスも合格のお祝い

今日もたくさんのぐるっとが出たのう。命の言葉も響き合ったぞ。ではこの辺で夢運び観音の出開帳を祝って、寿ぎの舞を舞おうぞ、会場の衆も一緒にな。



「寿ぎの舞」

明けの方から福大黒舞い込んだナー
サーサ舞い込んだ 舞い込んだナー



岩戸開き

われわれは、人の心をぐるっと絆でつないできた。それがより合わされて太い綱になった。さあ、この岩戸に綱をかけ、みんなの力で祠の扉を開けようぞ、開けようぞ！



民照大神様 岩戸より現れる

おお、扉が開いたぞ、扉が開いたぞ。
大神さまじゃ、大神さまじゃ・・・



「ぐるっと 一座」の公演も無事終了。
ステージ上へ勢ぞろい